

「ダムを追い出し 清流まもろう！節分集会」 宣言文

球磨川流域に深い爪痕を残した 2020 年 7 月の豪雨災害から 4 年半の月日が経ちました。地域の未来・これからを冷静に考えるゆとりができた今、守るべきものは清流、ダムはいらん！との住民の想いは抑えようもなく高まっています。

1959年以降、球磨川に建設された 3 つのダムがいかに清流と人々の暮らしを壊したか、人々の命を危険にさらしてきたかを知る私たちは、40 年の歳月をかけて 2008年に旧川辺川ダム建設の白紙撤回を勝ち取りました。2018 年には悲願の荒瀬ダムが撤去され、球磨川の水質に改善の兆しが見られるようになり、次は瀬戸石ダムの撤去と期待が膨らんでいた矢先の 2020 年に、未曾有の豪雨災害が流域を襲いました。そのわずか 4 か月後、唐突に発表された流水型(穴あき)ダムの建設計画に県民は驚きました。誰がダム建設を要望したのか、住民の合意もなく何故それほど急ぐのかと。

水害被害の状況や、拡大の要因について、市民による実態調査が進むにつれ、国土交通省と熊本県の性急さに対する不信感が強まりました。川辺川にダムがあっても 2020 年水害は防げなかった、被害は球磨川本流より先に支流から溢れ拡大していったと、現地調査を継続している住民が繰り返し指摘し、国交省と県に共同検証を訴えても頑なに拒否し、ダム建設に突き進む姿勢は異常としか思えません。住民が洪水の衝撃から立ち上がり、泥まみれで復旧に取り組んでいる最中、どさくさに紛れるようにして公表されたダム建設計画。その決定に至る過程は、不透明そのものです。

国交省が示しているダムによる洪水防止効果の基準となる基本高水流量は、ダム建設を正当化するための数字合わせにすぎません。

また、“穴あき”であれば極限まで環境への影響を減らせるとする環境アセス結果も、到底信じることはできません。影響はないだろう、あっても対策を考えるという曖昧な表現が並ぶだけで、科学的・生物学的に検証されたものではないからです。各地に建設された小規模の穴あきダムですら、生態系や環境への影響が明らかになる今、高さ107mもの国内最大の流水型ダムができれば球磨川・川辺川の清流は消えるという不安は確信になっています。

公共事業に求められる、環境保全の優先性、政策決定から実施決定に至る各段階での情報公開の徹底、民主性、透明性、合理性、公正の確保の全てが川辺川ダム計画においては欠落しています。そして、地域を潤してきた“清流が育む人々の暮らしと経済”が無視されていると言わざるを得ません。

被災者に遠慮してダム反対の声を上げることをためらう人もいます。しかし、被災者の多くはダムができて災害は防ぐことができない、むしろダム満水時の緊急放流が怖いと、ダムに反対しています。また、ダムで栄えた地域はなく、清流を失い地域は衰退します。

事実(真実)に背を向け、自然への謙虚さもなく、民意を無視した川辺川ダム建設計画を白紙に戻し、ダムによらない流域治水と地域復興が、“住民参画”と“住民決定”で行われることを、私たちは、国交省と県に強く求めます。そして、住民自身が、事実に基づく丁寧な検証を行い、真実を持って「鬼ダム」を駆逐・粉碎することを宣言します。

2025 年 2 月 2 日

「ダムを追い出し 清流守ろう！節分集会&パレード」参加者一同

協力・賛同団体(2025年1月31日現在)

- 1、子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会
- 2、ダムによらない復旧・復興を求める人吉・球磨の会
- 3、川辺川を守りたい女性たちの会
- 4、清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会
- 5、川辺川・球磨川を守る漁民有志の会
- 6、美しい球磨川を守る市民の会
- 7、下球磨・葦北川漁師組合
- 8、瀬戸石ダムを撤去する会
- 9、坂本町被災者・支援者の会
- 10、川辺川利水訴訟原告団
- 11、NPO 法人くまもと未来ネット
- 12、水と緑ネット
- 13、五木ぴーあーるし隊ダム反対隊
- 14、清流残したい五木の会
- 15、坂本町災害支援チームドラゴントレイル
- 16、球磨川水害犠牲者・支援の会
- 17、熊本の環境を考える会
- 18、産廃建設施設を考える会
- 19、天草・路木ダムの再検証を求める全国連絡会
- 20、自由・平和・民主のための広範な国民連合・熊本
- 21、水俣病胎児性患小児患者・家族・支援者の会
- 22、エコネットみなまた
- 23、くまもと障害者労働センター
- 24、熊本のタネと食を守る会